

D— 6 福島地方における幼児の実態（第3報）
——機業地幼児の社会成熟度について——

福島大教育 辻 英子

1. 1,2 報において福島地方幼児の身体的発育や運動能力の概略をとらえたので、今回は幼児の社会生活に必要な能力（社会成熟度）の実態を調査し、幼児保育の手がかりとすることを目的とした。

社会的な生活能力は子供をとりまく環境の中で多かれ少かれ獲得する能力であるといわれているが、今回は母親が働く割合の多い（約50%）機業地の幼児を対象として、主として幼児をとりまく人的環境との関連で社会的成熟度をみようとした。

2. 福島市の南東約22軒の阿武隈山系中にある川俣町は昔から軽目羽二重の産地として知られている。この地の4, 5, 6 歳幼児234名を対象として昭和42年7月田研式社会成熟度診断検査を実施し、更に10月対象幼児の生育歴、家族概況をアンケートにより求め、2～3の人的環境条件と社会成熟度発達との関連を分析した。

3. 社会成熟度診断検査実施後、社会成熟度指数（S・Q）及び7領域180項目の通過率を算出し考察すると、川俣町幼児の社会的な生活能力の発達は全般的には良好といえる。しかし通過率からは“自己統制”“自発性”に陥没のあること等明らかとなった。

又家族型、共働きの有無、出生順位別でも社会成熟度